

# 多様な性があること、知っていますか？

世の中には、女性と男性しかいないのでしょうか？

→ **「いいえ、違います！」**

誰かを好きになることが当たり前なのでしょうか？

→ **「いいえ、違います！」**

しぐさや言葉遣い、好きになる性など、私たちの周りには多様な「性」の形があり、人の「性」のあり方はさまざまな要素から形づくられています。

性の多様性を理解するには、まず性を構成する4つの要素を知ることが大切です。

## 「性」の4つの要素

### からだの性

(性的特徴)

からだの性別。

この特徴に基づいて戸籍上の性別が割り当てられる

### 表現する性

(性表現)

しぐさ、言葉づかい、髪型、服装など

自分の性をどのように表現するか

### 好きになる性

(性的指向)

どういった人を好きになるか

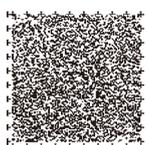
### こころの性

(性自認)

自分の性別を

自分でどう思うか

一人ひとりの性は、このような要素で構成されていて、その組み合わせも人によってさまざまです。それぞれの人にとってのあたり前を、お互いに受け入れ尊重し合うことが大切です。



## [SOGI]とは、誰もがもっている性の要素です

# SOGI

SOGIとは、性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字をまとめた言葉です。

性的指向と性自認は誰もがもっていて、すべての人の性のあり方を表すもので、特定の集団を指すものではありません。性のあり方はグラデーションのように多様で、誰もが、多様な性の中を生きる一人ひとりなのです。



## [LGBTQ]とは、性的マイノリティ(少数者)を表す総称の一つです

# L

レズビアン  
Lesbian

女性として女性を好きになる人

# G

ゲイ  
Gay

男性として男性を好きになる人

# B

バイセクシュアル  
Bisexual

同性を好きになることも異性を好きになることもある人

# T

トランスジェンダー  
Transgender

出生時に割り当てられた性別と性自認が一致しない状態の人

# Q

クエスチョニング  
Questioning

自分の性自認や性的指向が定まらない人

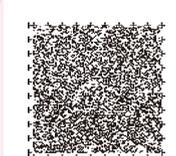
LGBTQは、上記それぞれの頭文字をまとめた言葉です。

性的マイノリティの総称のひとつで、異なるマイノリティ同士の連帯も示しています。

## 「性同一性障害」から「性別不合」へ

トランスジェンダーのうち、からだの性とところの性が異なることで、不快感を感じるなどの医学的診断名である「性同一性障害」は、これまで精神疾患の一つとして捉えられてきました。

2019年、世界保健機構(WHO)総会で、「性同一性障害」が精神疾患の分類から除外され「性の健康に関する状態」という分類の「性別不合」に変更され、2022年から適用となりました。



# 性的マイノリティの人たちは、さまざまな悩みを抱えています

私の周りには性的マイノリティの人はいません。

→「いいえ、違います!」

性的マイノリティの人のなかには、差別や偏見の目を恐れて、本当の自分のことを言えないで過ごす人もいます。

性的マイノリティに  
該当する人は、

約8.9%  
(11人に1人)

との結果もあります。

※2020年電通ダイバ  
ーシティ・ラボ調査

性的マイノリティの人は、学校や職場、地域社会で  
困難や偏見、差別的な扱いに直面しています。

## 学校

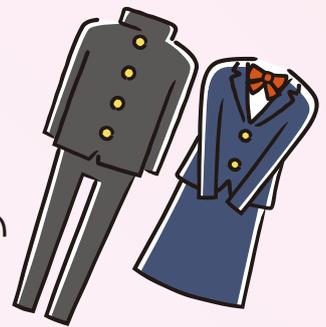
- 「女・男らしくない」「気持ち悪い」などのからかい
- 性自認と異なる制服の着用がづらい

## 職場

- 性自認と戸籍上の性別の不一致による採用時の不安
- 会社や上司にLGBTQに対する理解がなく、カミングアウトすることができない

## 家庭や地域

- 地域や近所の人たちの理解を得られるか不安
- 安心できる自分の居場所がない



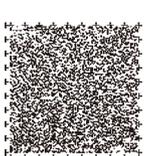
日常生活のさまざまな場面において、「性に関するさまざまな悩みを抱えている人がいるかもしれない」という意識をもち、誰もが性の多様性を理解する必要があります。

## カミングアウト

性的マイノリティの当事者が自らの意思で他者に伝えること。カミングアウトされたら先入観に基づかず最後まで話を聴きましょう。性的マイノリティの人たちが安心して話ができるような環境づくりが大切です。

## アウティング

ある人のセクシュアリティ(性的指向や性自認など)を、その人の同意なしに第三者に伝えてしまうこと。本人の了解なしに口外することは、命にかかわるような重大な人権侵害であり絶対にしてはいけません。



# 多様な性を認め合う、共生社会の実現に向けて

## 私たちにできること……

性的マイノリティの人が身近にいることを知って理解することが大切です。

社会にはさまざまな「性のあり方」が存在していることを認識し、当事者が偏見や差別を受けることなく、誰もが自分らしく生きることができ、社会の実現に向け、性の多様性についての理解を深めていくことが大切です。



## アライ (ALLY) になろう

ALLYは、英語の「Ally (同盟、支援者)」が語源で、性的マイノリティのことを理解し、自分にできることは何かを考えて行動する人のことを言います。

社会では、企業などを中心に6色の虹色 (性の多様性を尊重する象徴) のレインボーフラッグやステッカーを掲示するなど、アライであることを表明する取り組みも広がっています。

アライが増えていくことが、誰もが多様性を認め合いながら、いきいきと輝く社会の実現につながります。

## 「福岡県パートナーシップ宣誓制度」

性的指向や性自認にかかわらず、人生を共にしたい人と安心して生活していくことができるよう、「福岡県パートナーシップ宣誓制度」が2022 (令和4) 年4月1日から開始されました。

この制度により、双方または一方が性的マイノリティのカップルが県営住宅への入居申込など、福岡県の行政サービスが受けられるようになりました。



詳しくはこちらまで <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuokapartnership.html>

一人ひとりの性の多様性が尊重され、お互いの違いを認め合う、共生社会の実現を目指しましょう。

